

水上メガソーラーについて

一般質問



別府 直 議員
(自民の風・誠真会)

問 埼玉県桶川市における日本発の水上メガソーラー完成が記事に出ていた。水面を活用した太陽光発電のメリット・デメリット等についてお尋ねしたい。

答 水面を活用した太陽発電のメリットは、水面上に設置するため、パネル温度の上昇が抑えられ、発電量が約10%から25%ほど増加する点です。またアオコや水草の発生を抑制する効果があり、事業終了後の撤収も容易となっています。デメリットは、陸上型に比べ若干

の割高となり、発電に必要な水位の維持のために、水面の低下をどう抑えるかという課題がある点です。

また、メガソーラーには、約4,000枚以上のパネル設置が必要となり、単純面積で約1.2ヘクタール、余裕をもって1.5から2ヘクタール程度の水面面積が必要であり、加西市では約9カ所程度がこれに該当します。

問 池を提供することで、地元への収入にも繋がる。池を管理している地権者等が絡む問題であり、一概に市がどうこう言えない部分ではあるが、ため池を利用し、なおかつ地元も潤い、市としてもメリットがあるものなので、一歩でも実現に向けて努力していきたいと考えるが、いかがか。

答 地域への収入で一番現実的であるのは、事業者を設置場所を貸

すことで賃借料を得るという方法です。仮に収入を得た場合、いろいろなところで活用でき、地域の全体の自治を高めるよい取り組みになると考えます。

(市長) 検討から次の段階に入っていると考えます。事業を実施している事業者の方々にコンタクトをとり、加西市の9カ所の池を直接見ていただく等、具体的な動きをするよう指示しているところです。地域づくりも含め大事な課題であり、頑張っってやっていきたいと思っています。

■その他の質問項目

- ・ 控訴棄却を受けて
- ・ 市長マニフェストについて
- ・ 生産年齢人口減少について

ふるさと創造会議について

一般質問



井上 芳弘 議員
(日本共産党)

問 検討委員会の報告書では、組織のあり方について、それぞれの取り組みにゆだねるとあるが、一定の方向、組織とはどういう形なのか、部会のあり方はどういうものか、先進地の例を具体的に学習をしていく事が大事では。

答 7月下旬から8月上旬にかけての交付金制度の説明会では、概要について説明させていただきましたが、やはり詳細な手引きが必要と考え、現在作成しております。手引きには、組織の構成例、運営規約の例示などを掲載しており、各組織に説明、周知し、参考

にしていきたいと考えています。

問 諸課題を地域の円卓会議で議論していくとのことだが、いずれの(先進地の)協議会の立ち上げに際しても、立ち上げの前後は別にして、地域の課題を選んだ上でまちづくり計画を策定する努力がされているが、その点どのように考えておられるか。

答 各校区に地域ビジョンとしての計画を策定していただきたいということで条例に挙げております。地域の皆さんで取り組み等を検討していただき、夢のあるビジョンをつくっていただきたい。そのためには、市の全体計画等も説明をし、知っていただくことが、非常に重要であると考えています。

問 加西市の施策だけではなく、兵庫県にも国にも、地域づくりのさまざまな施策があります。過疎化した地域

の支援策もあります。計画づくりの前提として、(地域が)情報を十分に持っていることが大事では。

答 情報提供に努めたいと思います。また地域担当職員が勉強会をして、地域に説明できる体制をつくっていききたいと思います。

問 行政の施策そのものが地域とかわるものですから、全職員一体となってやっていくことが必要では。行政の体制は。

答 地域担当職員、11校区に38名を配置しています。管理職のこれまでの知識、経験を発揮していきたい。未経験の分野ですが、地域とともに成長を目指してまいります。

■その他の質問項目

- ・ 財政問題について ほか